

## 令和元年度 学校研究 ～今年度の取り組みとまとめ～

今年度の研究への取り組みや実践から得られた成果と課題を、学部ごとにポスターに作成し掲示しました。その中から、各学部の成果と課題についてご紹介します。

### 1. 幼稚部テーマ：幼児のかかわり合う力を育てるための指導のあり方

#### 【成果】

○発達段階や言語発達状況に応じて、どのような力を育てていくことが大切か共通理解を図ることができた。

- ・年少児段階：大人との一対一のやりとりのを基本に、傾聴態度や話題を理解してやりとりする力を育てる。
- ・言語発達が不十分なケース：他児との話題共有のために、自身の身近な経験と結びつけたり、話題や話の流れを可視化したりする。また、5W1Hに着目しながら文章として表現することを意識づけていく。
- ・コミュニケーション手段獲得中の幼児等：獲得中の手段が、自身の生活の中でどう生かされるようになるか、将来の姿も見据えて指導することが大切である。



#### 【課題】

- ・幼児の発達段階や言語発達状況の差が大きくなってきている。集団でのやりとりを活発にしていくためには、個々の幼児の目標をさらに明確にして指導していくことが求められる。(何を、どのくらい、どのように)
- ・これまでの伝統的手法では、十分に言葉が育っていないケースが見られる。認知的特性の考慮等、多方面からのアプローチも検討の必要がある。

### 2. 小学部テーマ：文学的文章を通して、実態に応じた読み取る力を育むための授業作り

#### 【成果】

- ・JCROSS、絵画語彙検査等の実施により、児童の語彙力を客観的に判断し、指導に生かした。
- ・題材ごとに全学年の児童がつまずいた内容を洗い出して共有し、動作化や視覚化等の手立てを検討することで、対象学級の授業作りに生かすことができた。

#### 【課題】

- ・児童の実態の差が大きくなったり、学年相応の読みが難しくなったりしている現状の中、単元の指導目標を、さらに焦点化していく必要がある。
- ・教師の課題として、自分で考えようとする態度の育成に向けて、児童同士の話し合いを深めていくための工夫が必要である。



修学旅行で見学した水族館の写真を  
見せ、「川底から水面を見た様子」をイ  
メージしやすくしました。

(6年国語「やまなし」)

3. 中学部テーマ：断片的な知識や体験がつながり「わかった」「おもしろい」と思える授業をデザインする取り組み

【成果】

- 授業のデザインシートを活用し、「習得」「活用」に着目することで、「分かった」と生徒が思えるような授業改善を行うことができた。（「デザインシート」：最終ページ参照）
- 知識の活用に向けた手立てとして、根拠とつなげて考えをまとめる学習活動を大切にしたり、ある教科での学びを他の教科でも使えるように支援したりすることが効果的だった。



【課題】

- 授業で習得した内容をすぐに活用する場を設定したり、反復学習や家庭学習を重視したりして、定着を図ることが必要である。
- 学習用語の理解が不確かなことがあり、知識の習得や再生を難しくさせている。また、実体験がしにくい、イメージが持ちにくい内容についてどう興味を持たせていくか。
- NIE 教育を実践することにより、ニュースや新聞記事に興味関心を持たせ、社会の出来事を少しでも理解できるようにすることが大切である。

4. 高等部テーマ：生徒の良さと力を引き出し、自ら考え主体的に学ぶ生徒を育てる授業作り

【成果】

- 生徒の力を引き出す工夫を凝らした授業のデザインシートを作成し、授業実践したことで、生徒の課題や教師の指導上の課題等を共有することができた。



【課題】

- 生徒が自ら考え学ぶには、実社会や日常生活と関連させた話題を提供し、生徒が学習題材を身近なものとして捉えられるように教材研究していくことが大切である。
- 生徒が持っている知識や経験、情報等をもとに思考できるようにするための時間の確保、教科の特質に応じた見方・考え方を働かせること、学んだことを整理・確認し新たな課題を発見する等の、授業の組み立て方(授業デザイン)については、さらに研究が必要。

5. 寄宿舍テーマ：語彙力・表現力を育てるための環境づくり

【成果】

- 語彙カードをよく目にする共通区に掲示したことで、生活の中でよく使用している物や場所の名前でも改めて確認すると正しく言えなかったり、言い間違えをしていたりすることがあるという姿に気付くことができた。





- 寄宿舍の行事をテーマにした川柳作りに取り組んだことで、川柳の形式に沿って自分の思いを表現することができた。書いた川柳は掲示し、友だちの書いた川柳を見てそこから会話が広がる様子が見られている。



【課題】

- 生徒の言語力（語彙、表現力等）を高める機会は、寄宿舍生活の中にも数多くある。掲示物の工夫により、生徒の興味を引きつけることができたが、時間が経つにつれて見る機会も減ってしまう。生徒がより興味を持って見るための工夫や活用の仕方について、検討していく必要がある。

今年度の学部研究では、幼児児童生徒の現状と課題、さらには指導における課題や改善のポイント等について、授業研究を通して教師間で共有することを大切にしてきました。研究を通して得られた改善のポイントや授業デザインシート等を活用しつつ、さらに授業の改善に努めていきたいと思えます。

（参考資料：中学部授業改善シート）

授業改善シート 中学部

学習グループ	教科等	国 語	授業者
目指す生徒の姿に向けて、取り組みたい指導や手立て (7月：自らの授業の振り返りと改善計画)	改善点	「習得」に向けた	<p>&lt;目指す姿&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書かれた時代や文章から、背景や心情の変化を捉えることができる。</li> </ul> <p>&lt;指導・手立て&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○根拠のない各自の勝手なイメージから、共通の土台となるイメージに置き換えてから読み始めることができるように、時代背景などの導入を丁寧に行う。</li> <li>○心情の変化を可視化する。</li> </ul>
		「活用」に向けた	<p>&lt;目指す姿&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○根拠を本文中から探しながら読むことで、作者の伝えたいことを感じ取ることができる姿</li> </ul> <p>&lt;指導・手立て&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で根拠を探せるように、根拠となる文に印をつけながら読ませる。</li> <li>○各自の経験と、登場人物の行動などを重ねて読めるような問い掛けをする。</li> </ul>

	<p>中学部テーマに向けた改善点</p> <p>&lt;目指す姿&gt;  ○イメージを膨らませながら文章を読むことで、「おもしろい!」と感じる姿  &lt;指導・手立て&gt;  ○時代背景や心情の変化に注目し、次の展開を予想しながら読み進めさせる。  ○予想が当たった時、違った時、それぞれの予想の根拠に立ち返って原因を確認させる。</p>
(~12月)	授業実践 と 互見授業
(1月末) まとめ・報告	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>1 「分かった!」「おもしろい!」と思う生徒の姿が見られたか。  ○導入で自分勝手なイメージと事実が違っていたことに驚いてからの集中力・理解力の違いが見られた。</p> <p>2 主体的な学びの姿が見られたか。  ○読み方(音読)を教師と一緒に繰り返し行ってから、自分で、和歌の句切れや係り結び、枕詞などを探しまとめる中で、主体的な学びが見られた。</p> <p>3 身につけさせたい力はついたか。  ○分からない時に、自ら便覧(資料集)等で調べ、自ら課題解決する方法を身につけることができたことで力はついてきている。</p> <p>&lt;次年度に向けた新たな改善点&gt;</p> <p>○多くの語彙に触れ、読み取れる言葉の数を増やすための通年での取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は漢字の読み書きを行ったが、それに並行して語彙も取り入れていく</li> <li>・授業が遅れないよう通年での(単元の)取扱い方の工夫</li> </ul>

(参考資料：高等部授業デザインシート)

### 授業のデザインシート

教科：数学	単元名：データの分析	高等部2年	担当者
-------	------------	-------	-----

#### ■指導目標

- ・統計の基本的な考えを理解するとともに、データを整理・分析し、傾向を説明することができる。
- ・電卓や表計算ソフトを利用してデータの整理・分析を効率よく行うことができる。

#### ■指導計画 (50分×14回)

時数	主な学習活動
1	データの整理(度数分布表・ヒストグラム)
2	データの代表値(最頻値・中央値・平均値)
2	データの散らばり(四分位数と四分位範囲・四分位偏差・箱ひげ図)
2	データの散らばり(分散・標準偏差・四分位偏差と標準偏差)
2	データの相関(散布図・相関係数)

1	確認問題
1	コラム
3	課題学習（ぴったり10秒で止めよう）

■評価の観点

<知識・技能>

- ・四分位数、分散、標準偏差、相関係数などに着目し、データの傾向を的確に把握することができる。

<思考力・判断力・表現力>

- ・自分が整理・分析したデータの傾向を、文章にまとめて発表することができる。

<学びに向かう力>

- ・身近なものや社会生活と関連が深い題材を選び、友達と協力してデータの整理・分析をし、まとめることができる。

■本時の指導（2/14時間目、50分）

時配	学習活動	指導上の留意点	準備物
5	1. はじめのあいさつをする。 2. 前時の学習内容を振り返る。	・前回の学習で使用した度数分布表やヒストグラムをテレビに映して提示し、重要語句について再確認する。	テレビ パソコン
	3. 最頻値・中央値・平均値の意味と求め方を知る。 4. グループで相談して選択肢の中から好きな題材を選び、最頻値・中央値・平均値を求める。 5. 発表する。	・それぞれの漢字の意味を考えさせ、語句の意味を予想させる。 ・具体的な例を提示し、求め方を学習する。 ・2～3人のグループを作る。 ・身近なものや社会生活と関連が深い題材を提示し、興味を引くものを準備する。 ・わかりやすく簡潔に発表することができるように、ワークシートの様式を工夫する。	テレビ パソコン データ ワークシート ワークシート
	6. まとめをする。 7. おわりのあいさつをする。	・語句の意味と求め方について自分の言葉でまとめさせる。	テレビ パソコン

■「主体的に思考し学ぶ」授業改善の工夫

- ・生徒たちの身近なものや社会生活と関連が深い題材を提示し、グループで好きな題材を選んでまとめ発表することで、自分で考えたり友達の意見を聞いたりしながら学習内容の理解を深めることができる。

■成果・課題

- ・単元の中で、教え込む場面と生徒自らが考える場面を設定し、考える場面では生徒たちの身近なものや社会生活と関連が深い題材を提示することで、一人ひとりが自分の考えをもつことができたり友達の意見を聞いたりすることができた。
- ・自分の考えが相手にわかりやすく伝わるよう意識することで、自分の考えを整理しながらまとめることができ、学習内容の理解を深めることができた。

- ・考える場面を多く設定することで授業の進度に遅れが生じるため、単元全体を見通して計画し、教え込む場面と生徒自らが考える場面を適切に設定していく必要がある。

## 令和元年度 学校研究 ～各学部の取り組み（2学期の実践）～

2学期は、各学部でテーマに基づいた授業実践を行ってきました。事前研修や事後の協議等の中で話題になったことや気づきについて、一部をご紹介します。

### 【幼稚部】

〈学部テーマ〉 幼児のかかわり合う力を育てるための指導のあり方

〈授業実践と気づき〉

○5歳児：言語発達の差が大きい集団での話し合い活動における言葉の押さえについて

- ・他児と話題を共有するのが難しい段階の子には、他児の話を自分の体験等の身近なことに結びつけて理解を促すことが必要。
- ・話の腰を折らずに言葉を押さえるために、短冊に気になる言葉を書いておき、後でホワイトボードに貼りながら筋道をまとめていくような方法も良い。



### 【小学部】

〈学部テーマ〉 文学的な文章を通して、児童の実態に応じた読み取る力を育むための授業づくり

〈授業実践と気づき〉

○叙述に沿って、場面の移り変わりや心情の変化を捉えさせるための手立てについて

- ・読み取ったことを動作化したり手話で表現したりして、共通理解できるようにする。
- ・登場人物の心情を捉えさせるための手立てとして、イラストやペープサート、吹き出しなどを活用する。

○気持ちを読み取ったり表現したりするための語彙の獲得や、体験したことのない内容についての言葉の指導についての工夫

- ・言葉の意味調べや言葉のイメージマップ作りを通して、語彙の拡充を図る。

○児童が読み取ったことを共有するための手立てについて

- ・場面を演じたり手話で表現したりして、イメージを持つことができるようにする。
- ・環境設定（話し合いをしやすい座席の位置を工夫する。教科書の本文のコピーを活用し、全員が一つのもので確認できるようにする。）



○児童同士のやりとりをつなげるための教師の働きかけについて

- ・児童の発言を教師が繰り返し、児童に受け止めたことを伝えつつ、他児童へも伝わるように伝える。



## 【中学部】

〈学部テーマ〉断片的な知識や体験がつながり、「分かった!」「おもしろい!」と思える  
授業をデザインしよう

〈授業実践と気づき〉

### 研修グループ1

○国語：文章の書かれた時代や、背景や心情の変化を捉えることができるための工夫

- ・時代背景などの導入を丁寧に行い、各自の勝手なイメージから、共通の土台となるイメージに置き換えてから読み始めることができるようにする。

→自分の勝手なイメージと事実が違っていたことに驚き、以前と比べて集中力や理解の深さに違いが見られた。

○数学：自らの考え方を、式や言葉で表現しながら問題を解くことができるための工夫

- ・生徒とやりとりしながら考え方を板書したり、ノートを取るときに考えながら書き込めるようにしたりする。(板書やノート作りの工夫)

→板書をするときに適宜空欄を設けたりすることを積み重ねることで、自らの考えを式や言葉で表現する姿が見られるようになってきた。

### 研修グループ2

○数学：生徒の実態に応じて、自分でできることを広げる。

- ・買い物の仕方や電車・バスの利用方法、時間・距離の計算方法等を身に付けさせたり、様々な情報を視覚的に提供したりする。



○自立活動：自分の考えが相手に伝わる楽しさや相手の話が分かる楽しさを体験できるようにするために

- ・発表内容についての質疑応答やクイズなどを通して、生徒自らが発言したり、質問したりする場を設定し、他者とやりとりをする経験を増やす。

→授業の流れが分かり、質問の仕方や問題の出し方、答え方を理解することができ、積極的に授業に取り組む様子が見られた。

## 【高等部】

〈学部テーマ〉生徒の良さと力を引き出し、自ら考え主体的に学ぶ生徒を育てる授業作り  
～「分かった!」「おもしろい!」授業を目指して～

〈授業実践と気づき〉「主体的に思考し学ぶ」授業改善の成果と課題について

○1年普通科 国語

- ・文章を「筆者の考え」と「事実」にわけて読み取らせる。

→思い込みで読み進めたり、読み違えたりすることが少なくなり、自分の考えを客観的にまとめることができた。

○1年普通科 職業・食育



・作物の成長には時間と手間と愛情と体力が必要であることを、日々の学習の中で実感させた。

→働くために必要なことや自分の課題について考えられるようになった。

・実生活に活かせる実習を取り入れた。

→作業した献立を家庭に持ち帰り「実際に作って見たよ」との声を聞くことができ、今後の拡がりに期待がもてる。

#### ○2年普通科 古典・コミュニケーション英語

・他の生徒に説明することを目的とする。

→自分で辞書や本、ネットを活用して意味を調べたり現代語の内容も更に分かりやすくまとめ直したり、内容を絵や図で表現して生徒達は「楽しい」と言って取り組んでいた。

#### ○3年普通科 数学

・「決まり」「決まった方法」「似ている」「繰り返すことを公式として使う」など、考えを学ぶことをどのように伝えておくか工夫。

→数学的な見方、考え方に必要な用語や言葉については、1字ごとの意味やイメージを簡単に持たせ、普段から使っていくことが必要。単語の意味を教えるのではなく、出てくるたびに使うことで身に付けさせたい。



### 【寄宿舍】

〈テーマ〉「語彙力・表現力を育てるための環境づくり」

〈実践と気づき〉

○寄宿舍の生活の中で様々な言葉や表現に触れる機会を作ること興味関心を持ち、正しい語彙力や豊かな表現力が育つきっかけになるように、「語彙カード」と「川柳」をキーワードにして取り組んでいる。

#### ①語彙カードについて

「階段」「洗面台」「時計」「椅子」「非常口」などの語彙カードを共通区にある実際の物に貼り、掲示している。普段の生活の中で、よく目にしている物の名前でも改めて確認すると、正しく言えなかったり、言い間違えをしたりすることがあると分かった。

#### ②川柳について

寄宿舍の行事をテーマに全舎生対象で取り組んでいる。はじめに川柳を書く際のポイントを伝えたり、テーマごとに川柳の中に入れるキーワードを提案したりすることで、川柳の形式に沿って自分の思いを表現することができている。書いた川柳は掲示し、投票方式にして表彰をしたり、友だちの書いた川柳を見てそこから会話が広がったりしている様子が見られている。



3学期は、今年度のまとめとして、学部ごとに研究の成果や課題をまとめたポスターを作成・掲示します。

## 令和元年度 学校研究 ～各学部の取り組みについて～

5月の全体研修会で確認された学校研究主題に基づき、幼・小・中・高等部の各学部でテーマを設定し、研究計画を作成しました。

### 【幼稚部】



〈学部テーマ〉 幼児のかかわり合う力を育てるための指導のあり方

〈研究の目的または設定の理由〉

- ・ 幼児のかかわり合う力（自分の思いを適切に表現する力や相手の働きかけを受け止める力）を高めていけば、相互のコミュニケーション関係が向上し、幼児同士のやりとりが活発になったり状況の理解が深まったりして、活動への意欲が一層高まるのではないか。
- ・ 「かかわり合う力」を育てていくための教師の働きかけの工夫や場の設定の仕方等に焦点をあてて指導を振り返り、改善を図りたい。

〈研究の方法〉

- ・ 各教師が指導の中で困っていることや問題点を出し合い、指導場面のVTRを見ながら意見交換し、改善に向けての方法を検討する。（2学期に4回実施予定）
- ・ 話し合いで得られた改善のアイデアを実践の中で検証し、結果を踏まえて「かかわり合う力」を育てるために大切なことを教師間で共有する。

### 【小学部】

〈学部テーマ〉 文学的な文章を通して、児童の実態に応じた読み取る力を育むための授業づくり

〈研究の目的または設定の理由〉

- ・ 語彙理解が少ないために、文章の内容について具体的なイメージをもちにくく、文章の理解が難しい。また、叙述や描写をもとに根拠を明確にして自分の考えをもったり言葉や文章で表現したりすることが難しい児童の実態から、読み取る力を育むための支援や手立てについて研究を進めたいと考えた。

〈研究の方法〉

- ・ 読み取る力の評価の仕方について、共通理解を図る。
- ・ 低、中、高学年それぞれに、文学的な文章の読み取りで身につけさせたい力について整理する。
- ・ 題材ごとに、児童の実態に応じて身につけさせたい力、また、そのために必要な力について整理する。
- ・ 読み取る力をつけるための授業での手立てをどのように工夫するかを検討し、模擬授業を行って更に詳しく検討を重ね、実践へつなげる。





### 【中学部】

〈学部テーマ〉断片的な知識や体験がつながり、「分かった!」「おもしろい!」  
と思える授業をデザインしよう

〈研究の目的または設定の理由〉

各教科・合わせた指導において、生徒が主体的に思考し学ぶ姿（つきたい力・育みたい力）を明確にして、どのような手立てが必要かを考え、習得・活用・探求の学習サイクルの確立を図りながら授業実践をすることにより、生徒たちは、「分かった」「おもしろい」という体験が積み上がってくると考え、本テーマを設定した。

〈研究の方法〉

- ① 生徒の実態に応じて、6つの研究グループに分かれて、生徒たちに「つきたい力・育みたい力」を明確にして、共通理解を図る。
- ② 各グループで授業のデザインシートを作成する。
- ③ 各グループで互見授業を実施し、授業改善に役立てる。
- ④ 1年間の研究の成果をまとめる。



### 【高等部】

〈学部テーマ〉生徒の良さと力を引き出し、自ら考え主体的に学ぶ生徒を育てる  
授業作り ～「分かった!」「おもしろい!」授業を目指して～

〈研究の目的または設定の理由〉

- ・昨年度の研究成果を活用しながら、各々の教師が日頃授業で感じている課題を複数で検討し、一人一人の良さを引き出す授業をデザインしていきたい。
- ・一人一人の生徒に身につけさせたい力を設定し、活動の質を高めながら習得・活用・探求という学習サイクルの確立を図ることで、生徒の力を引き出すことができれば、生徒が「分かった!」「おもしろい!」と実感できるようになる。また生徒の学習意欲が向上し、ひいては主体性・積極性の向上につながるだろうと考え、本テーマを設定した。

〈研究の方法〉

- ① グループに分かれて、各自の課題や工夫を共有する。
- ② 各々の教師が授業のデザインシートを作成する。
- ③ グループで授業検討・研究授業・事後検討を行う。→自分の授業改善に役立てる
- ④ 1年間の評価をグループごとにまとめる。



2学期以降、それぞれの学部でテーマに即した研究授業等を行いながら研修を進めていきます。

令和元年度研究主題が決定！

研修部

本校では、学校研究主題のもと、年間を通して学部単位で研修を進めています。  
今年度、新たに以下のような研究主題を設定いたしました。

### 「主体的に思考し学ぶ力を育む授業の改善」

～「分かった!」「おもしろい!」と思える授業をデザインしよう～



—「授業をデザインする」とは?—

活動の質を高めながら 習得・活用・探求 という学習サイクルの確立を図ること。

#### 単元全体を見通した 授業のデザイン例



【中学校理科 化学変化と物質の質量(7～8時間)】  
知識及び技能 (化学変化と質量の保存) 化学変化の前後に物質の質量を測定する実験を行い、反応物の質量の総和と生成物の質量の総和が等しいことを見いだして理解すること。  
(質量変化の観測性) 化学変化に際する物質の質量を測定する実験を行い、反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだして理解すること。  
思考力、判断力、表現力等 化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現すること。

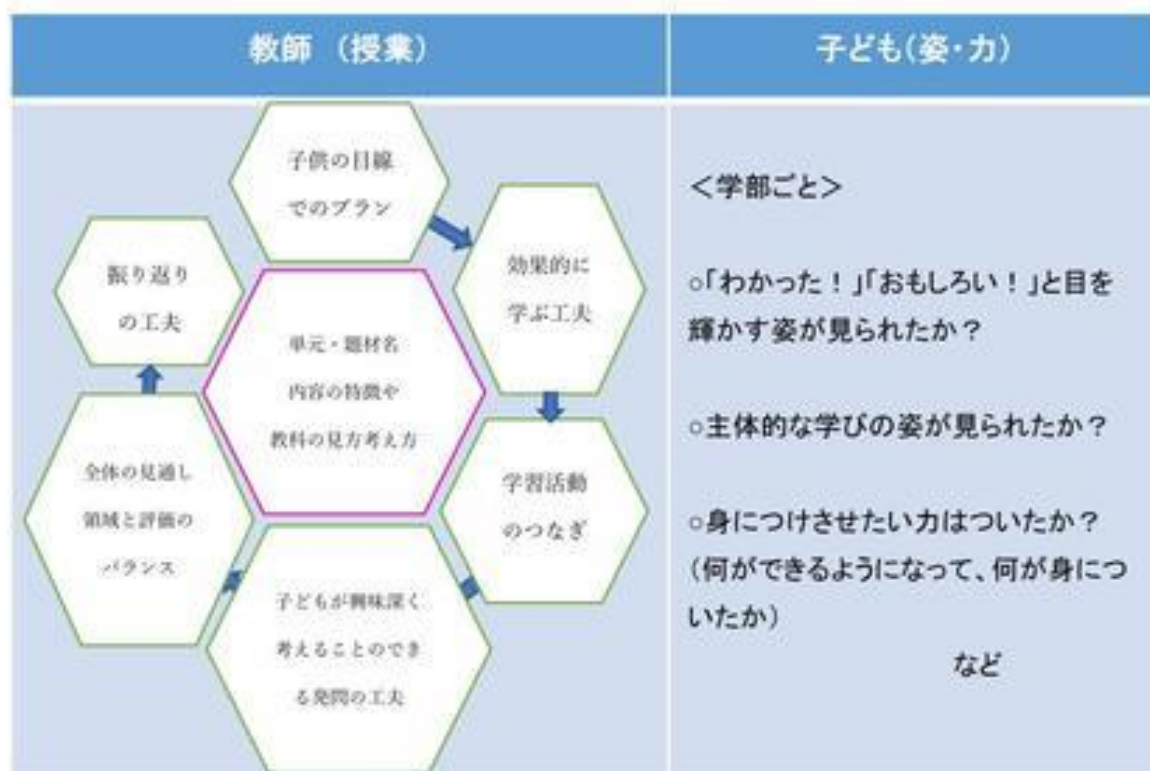
知識の習得	活用・探究	知識の習得	活用・探究	まとめ
既習の知識の確認	計画の立案、観察・実験、レポート作成、振り返り	新たな知識の習得 (他の事象への適用)	前時の知識の確認 新たな課題の把握 (例 新物質マブネシウムを加熱させる実験)	深い知識の習得 (概念の確立)
既習の知識の例 -物質が水にとけるとときや状態変化するとき、全体の質量は変化しない	新たな知識の例 -化学変化の前後に物質全体の質量は変わらない【質量保存の法則】 (他の事象への適用の例) -加熱した状態でスチールボールを数回たたき、反応の前後に質量は変化しない	新たな課題の例 -反応する物質ごとの質量の間には一定の関係があるのか	深い知識の例 -反応する物質ごとの質量の間には一定の関係がある (濃縮した概念) -化学変化は原子が結びついたり離れただけである	

与えられた手順通りに実験を行い、全ての生徒が同じデータを導くことが目的化

・既習の知識や新たに得た知識を活用して新たな課題を見いだす  
・課題を解決するための実験方法を考える  
・生徒によって異なる結果が出た場合に、その要因や妥当性を考察し、議論する など

—教師の視点からは—

—授業を通して得られる子どもの姿は—  
→学習の評価



今後は、学部ごとに設定したテーマに沿って授業をデザインし、互見授業→授業研究→検証→まとめを繰り返して研究を進めていきます。





